

横田英史の 書籍紹介コーナー



半導体戦争

～世界最重要テクノロジーをめぐる
国家間の攻防～

クリス・ミラー、千葉敏生・訳
ダイヤモンド社 2,970円(税込)

半導体を巡る、米国や中国、日本、台湾、韓国などの勢力争いを歴史を踏まえつつ紹介した書。100人超の関係者にインタビューし、半導体の地政学的な問題とその背景を整理している。トランジスタの発明から扱っていることもあり500ページ超の大著だが、翻訳はこなれており読みやすい。日本の半導体メーカーが世界市場を席巻していた時代を知っている方は、歴史解説が中心となる前半部分は読み飛ばしても構わない。

「半導体の黎明期」「シリコンバレーの興隆」「日本の台頭」「日本の没落と韓国の台頭」「TSMCの興隆とリソグラフを巡る競争」「ファブレス企業の台頭とインテルの没落」など7章で構成する。中国の驚異が叫ばれているが、EUV露光装置や光源、EDAツールなどの中核技術は西側諸国が押さえており、急速な台頭は容易ではないと繰り返す。

日本の電機産業は なぜ凋落したのか

～体験的考察から見えた五つの大罪～

桂 幹
集英社 1,034円(税込)

TDK出身でTDK米国子会社の副社長、イメージング日本法人の常務を歴任した著者が、日本の電機メーカーが凋落

した原因を「5つの大罪」に求めた書。シャープの副社長を務めた父親と比較しつつ、電機メーカーの宿痾の数々を槍玉に挙げる。大罪とは「誤認の罪」「慢心の罪」「困窮の罪」「半端の罪」「欠落の罪」である。イノベーションは「選択と集中」と親和性が低いという見方は面白い。

高品質、高性能、高付加価値こそが日本の製造業の強みだとする「誤認の罪」や、根拠なき楽観論に浸り、やるべきことをやらなかった「慢心の罪」などポイントを押さえており、よくまとまっている。頭の整理に役立ちそうな1冊である。なお筆者は経営者として、2度のリストラを行うとともに、自らもリストラに遭うことになる。この間の行動や心情を筆者はかなり正直に書き綴っている。

ネットワーク・エフェクト

～事業とプロダクトに欠かせない
強力で重要なフレームワーク～

アンドリュー・チェン、大熊希美・訳
日経BP 2,420円(税込)

インターネットでビジネスを立ち上げ、急成長させ、競合他社を寄せ付けない存在にするための勘所を紹介した書。使う人が増えれば増えるほど製品やサービスの価値が高まる「ネットワーク効果」活用の要諦を自らの体験と取材をもとに明らかにする。豊富な事例を使った内容は、きわめて具体的で役立ち感がある。

筆者は、初期段階、成長初期、急成長期、安定期、参入障壁構築期に分けて、それぞれで打つべき具体策を披露する。

事例として、ウーバー、エアビーアンドビー、スラック、ズーム、インスタグラム、リンクトイン、ペイパルなどを取り上げる。興味深いのは、安定的に機能し、自律して成長できる「アトミックネットワーク」を重視しているところ。アトミックネットワークが最初のコミュニティに根付いてから、他のコミュニティに広げることが肝要とする。

人はどこまで合理的か 上・下

スティーブン・ピンカー、橘明美・訳
草思社 上下巻とも2,090円(税込)

蔓延する陰謀論やフェイクニュース、数字を使ったまやかしに騙されないための方法論を提示した書。確率論やゲーム理論、行動経済学、統計学などの知的ツールに基づく「健全な推論」が不可欠だと説く。

人が陥りやすい落とし穴と落ちる理由を、事前確率やベイズ推論などを用いて議論する。条件付き確率が混乱のもとにあっており、ベイズ推論は全人類が学ぶべきだとする。論証を分解して一式の前提と条件文に解説する「形式的再構成」を使えば、論理の飛躍や誤謬に気づけるという。

合理的な判断を下せない原因として科学教育の問題を指摘する。学校でも博物館でも、オカルトやマジックかと思われるものが混在する。科学教育から得られるものが混沌として、重力や電磁気力が超能力やカルト、水晶療法などとごちゃまぜになっているという。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現日経クロステック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。
2004年11月、日経パーソナルコンピュータ編集長に就任。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、
2016年日経BPソリューションズ代表取締役に就任。2018年3月退任。
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、
2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DXパートナーズ アドバイザリーパートナー、現在に至る。
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。
*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

